



IC たより

(社) 国際 IC 日本協会機関紙

Building trust across the world's divides

Initiatives of Change Japan

◇ 目次 ◇

カンボジア報告
IC 交流会
ジェームスさん日本滞在記

ナタリーさん来日について
【予告】チャリティーコンサート
【予告】IC フォーラム 2011 他

発行年月日 2011年2月15日
発行所 (社) 国際 IC 日本協会
〒156-0055 東京都世田谷区船橋 1-54-14
TEL: 03-5429-1156 FAX: 03-5429-1157
E-Mail: info@jp.iofc.org
HP: www.jp.iofc.org

頒価 1部 100円



IC 交流会 日中の絆を深めよう

2010年12月11日
ICハウスにて



▲スピーカーの文徳盛さん

「良き隣人となるために」

去る12月11日、ICハウスにてIC総会の後に交流会が開催された。メインスピーカーに文徳盛氏をお招きし、60名近い参加者を迎え熱気あふれる中、文氏のお話と質疑応答に意義深いひとときを過ごした。

中国大使館政治部参事官を務める文徳盛氏は、1963年西安生まれ、1988年吉林大学大学院卒業。中国国際交流協会在勤中の1993年より東京大学大学院に留学した経験も持つ。弁公室主任代理、アジア・アフリカ処処長等を歴任。2010年より在

日中国大使館に赴任。このほか中日友好協会理事、中華日本学会の理事も務める。

文氏はなめらかな日本語で、日中間に起きている政治や経済など種々の話題について経験に基づき率直に語った。文氏はスイス・コーでのIC世界大会にも中国国際交流協会の代表団のメンバーとして参加の経験も持ち、また何度もIC訪中団のお世話を頂いたことでICとは深い付き合いがある。

政治についても日本のはっきりとしたリーダーシップを見た上で、初めて中国側としての考え方や対応を決める事が出来ると話した。また、経済面でもなくてはならないパートナーであることを語った。ノーベル平和賞を受けた劉氏は文氏の学友であり、彼についての中国内部での様々な反応や自身の考えなど身近なストーリーを聞く貴重な時間であった。市民同士で穏やかに語り合える時が良き隣人となるために大切なことを感じさせられた。



▲多くの参加者が集まりました

日本の思い出

ジェームス・コーディネーター (オーストラリア IC)
(2010年10月から2ヶ月間 IC 事務局でインターンを務める)

私の父は若い時、日本のICの仲介で来日し英語教師として1年半日本に滞在しました。オーストラリアに帰っても、日本とのつながりは続きました。私が幼い時から両親は日本からの留学生をホームステイで受け入れていました。子供の時から家にはいつも日本人のお兄さんかお姉さんがいたので、次第に日本に興味を持つようになりました。私は大学生の研究分野として日本を専攻し、その後慶應大学で交換留学生として2009年9月に来日しました。

2010年4月からは日本語の専門学校に入学し西川口ゲストハウスに住みました。そこでは日本人の若い人たちと外国から来た人たちが一緒に暮らし、キッチンを共有し、よくパーティーをしたり、週末にはグループでキャンプやビーチ、マラソン等に出かけたりしました。楽しみながら沢山の友達を作ることができました。言葉や文化等の違いがあり時間がかかりましたが、日本人の友達もできました。最後に皆でディズニーランドに行ったこと等、今は日本を離れて懐かしく思い出します。

日本にいる間に自分がとても成長したと思います。昨年7月頃に次第に日本のことが嫌いになり始め、日本人の中に

▼交流会後に行われた送別会にて

親しい友達ができず、とてもネガティブに考えてしまう時期がありました。その時は日本を離れたいと思ったけれど、とにかく12月まで日本を離れずに頑張ると決めました。まず私自身が変わるべきだと気づいて、日本に対する心の壁をなくしました。すると帰国する頃までには、いい日本人の友達が沢山でき、日本のことがまた好きになり、最終的にはとてもよかったです。家族から離れる機会があったおかげで問題を解決し、経済的に自立し生活すること等、前より自立でき、精神的に強くなったと思います。加えて家族や友達の大切さが前よりも良く分かるようになりました。



カンボジア報告

「カット・ザ・ワールド」は、発展途上国で理容・美容の技術を活かしたボランティア活動です。このプロジェクトを立案した藤森氏と幹部社員が去る11月29日から12月2日までカンボジアを訪れました。

「カット・ザ・ワールド」 in カンボジア

藤森健至 (株)銀座



▲孤児院の子供たちと

今回、IC協会の協力を得ましてカンボジアでのボランティア活動に向けた視察を行わせて頂き、ありがとうございました。我々は、埼玉・仙台・北海道地区を中心に理容・美容の仕事をして頂き60年になる会社です。またその中で、国内の老人ホーム、少年院におきまして40年程ボランティア活動をして参りました。その流れの中で、日本だけではなく海外にも目を向けてみようということからスタートしたこの「カット・ザ・ワールド」ですが、私を含め、9人全員が初めてのカンボジア訪問ということで視察はもちろんのこと、皆の中で様々な心のチェンジを得ることが出来たように感じます。

旅行中、毎晩行ったミーティングの中で最も印象的だったのは、「ボランティアをしようという気持ちがあるなら、その相手のことをまずは良く知らなくてはならない」という議題でした。

「自分の所よりも経済的に貧困であるから、また技術や施設が劣っているから、ただそれだけのことでボランティアをしようということはおかしなことだ。そうではなく、自分も相手もお互い平等に話し合い理解し合うことが本当の相互扶助になる」。そのような考えを共有することが出来たのも、この視察があったからだと思えます。

IC協会の長野さん、ブンケンさんの協力により、ソン・スベール氏の運営する孤児院、またピラックさんの勤める就業訓練校などを回りながら、カンボジアの人々の本当の気持ちを少しでも正しく掴めたかどうかはまだ分かりませんが、この「カット・ザ・ワールド」を通してお互いの心の成長に繋がっていただければ良いと思っております。



▲ピラックさん(右端)が勤める職業訓練センターの美容師養成コースを見学



▲左から、藤森さん、ブットさん、ピラックさん、そしてブンケンさん



▲孤児院にて、5,6名の子供たちが、将来理容師か美容師になりたいと希望していた



「紙芝居を訪ねて」ナタリーさん来日

中山 啓介

ナタリー・ジェンドリさんとの出会いは、昨年夏 IC のスイス・コー世界会議場での会議の折、日本人参加者がナタリーさんの勧めで制作した、紙芝居『泣いた赤鬼』がきっかけだった。ストーリーテラーであるナタリーさんによると、日本の紙芝居は近年、より関心を高めつつあり、スイスのブックフェアのイベント等で上演実績があり、「子供達はかなり熱心に聴いてくれるし、人間が生きる上でのヒントを与えてくれる、教材としても大変貴重で有用なものである」とのことだった。コーでは我々日本人との間で紙芝居に関して不思議に話が盛り上がった。そして紙芝居発祥の地である日本に是非来たいという事でホームステイ先の紹介と通訳の依頼を受けた。



▲ナタリーさん母娘

何度かやりとりした後、昨年11月13日にナタリーさんとアミナさん(12才)母娘を日本に迎えることができた。最初の2日間は吉祥寺のホテルで開かれた国際紙芝居セミナーに参加し、長年理論面と実践面の研鑽に努めてきた「紙芝居文化の会」によるベテランの方々のプレゼンテーションを聴くことができた。



▲箱根にて

紙芝居は日本独特の文化であること、演じ方についての絵本との違い等の講演と演習があり、私自身、目からうろこが落ちる思いがした。2週間の来日中、ベテランの紙芝居師宅を訪ねたり、ミュージアムで紙芝居の実演を体験したり、紙芝居製作会社を訪問したりして、目まぐるしい日々が続いた。

ICハウスでお茶を楽しみながら旧交を温め合い、母娘は和畳の感触を楽しんだ。さらには念願の富士山を訪れることも叶い、箱根の温泉に入り、日本の文化と自然に触れる等、日本滞在をサポートしたIC有志たちによる「おもてなしの心」を満喫して帰途につかれた。

ヒジンさんからの手紙



昨年、日本のICの学校訪問活動で活躍し、現在ICの青年育成プログラムであるアクション・フォー・ライフ(AFL)に参加しているヒジンさんから手紙が届きました。

“お元気ですか？ルーマニアに着いて4日目になります。ICの友達に会って寒さも忘れます。皆とても温かく迎えてくれました。食べものもおいしくてたまりません。首都ブカレストから車で14時間かかるバイア・マーレという小さな町に来ています。一人で買い物に行けるのでとても便利です。2月8日にはモルドヴァに移動する予定です。日々皆さんとの再会を思っています。お元気です！”

アクション・フォー・ライフの日程

2010年11月～12月インド・パンチガーニで研修、その後グループに分かれて東欧、東アフリカ、東南アジア、太平洋地域などの国を2011年3月まで訪問する。興味のある方はウェブサイト www.afl.iofc.org をご覧ください。

ICチャリティーコンサートのお知らせ

“平和はあなたの心から”

癒しのフルート 須藤 英二 & 口笛演奏 柴田 晶子
2011年3月15日(火) 19時開演(18時30分開場)
杉並公会堂 小ホール(定員190名)
会費 2,000円 全席自由

曲目 トゥーランドット、シェルブールの雨傘、
「四季」'冬'より、笛吹きと犬、他

(予約申込の上、会費は当日受付にてお支払い下さい)

※皆様の浄財はICの青年交流育成事業に役立てられます。

IC国際フォーラム2011開催

《予告》

国際ボランティア2011年5月～7月来日予定



ギンタレ・カラリテさん
リトアニア



ディエゴ・ガリアーディさん
イタリア/ブラジル



ダワ・サンモさん
チベット



プラディット・ハルルさん
インドネシア

IC国際フォーラム2011開催(ハートンホテル東品川)

日時 7/2(土)～7/3(日)1泊2日 定員80名

テーマ “アジアの未来を創る”～心を開いて語り合おう～
各国の方々のお話やグループトーク、パネルディスカッション、文化のタベ等のプログラムです。世界各国の人と集い、楽しい時を過ごしませんか。初めての方もぜひご参加下さい！

スイス・コー国際会議2011 第3セッション・ツアー

「多文化世界での共生を学ぶ」

～ヨーロッパに於ける移民社会との融和に向けて～

2011年7月26日(火)

～7月31日(日)

今日のヨーロッパの現実を日本社会の未来像を考える上で貴重な示唆を与えてくれるでしょう。世界の人々と親しく交流の出来る貴重な機会ともなります。この機会に是非ご参加下さい。



生活の中で役立つことば④

“人を指差せば3本の指は自分の方を向いている”他人のせいにするのは簡単です。でも、ちょっとふり返ってみて下さい、自分自身のことを。

〈入会のご案内〉

平和はあなたの心から 静かになって心の声を聴こう
怒りや憎しみを超えて 人を思いやる心を育てよう
一人ひとりの心から 世界の平和が生まれる



▲ICハウス(東京都世田谷区)

当協会は、皆様からの会費及び寄付金により運営されています。内外の未来を担う青年達の交流や育成に携わり世界の平和を求め活動に是非ご支援下さいますようお願い致します。

○正会員(議決権を行使できます)
個人会員 年額 6,000円
法人会員 年額 50,000円
○賛助会員
個人会員 年額 3,000円以上
法人会員 年額 50,000円(一口)以上

会費・寄付金の振込先
1. ゆうちょ銀行
郵便振替口座番号 00180-0-38289
口座名 社団法人国際IC日本協会
2. みずほ銀行渋谷中央支店 普通預金
口座番号 162-4945790
口座名 社団法人国際IC日本協会

@編集後記

厳しい寒さの中、山茶花、水仙、梅と、花は季節の訪れを感じさせてくれます。潤いた人の心を潤すような、心の便りとなれば幸いです。皆様からのご意見、ご投稿をお待ちしております。広報委員:海老原真美、岡本さくら、高橋久子、宮本由紀子、長野清志、弓場睦